山梨中央銀行からのお知らせ

Yamanashi Chuo Bank

2024

ミニディスクロージャー誌

パーパス（存在意義）

「山梨から豊かな未来をきりひらく」

第121期 営業のご報告

2023年4月1日～2024年3月31日

私たち山梨中央銀行グループのパーパス（存在意義）

「山梨から豊かな未来をきりひらく」

私たち山梨中央銀行グループは、サステナビリティ経営の高度化に向けて「さまざまな連携強化と地域経済の活力向上」「DXの実現と地域社会のデジタル化」「豊かな自然環境の維持と将来への継承」等のマテリアリティ(重要課題)を掲げ、その解決に取り組んでおります。

山梨県は、富士山や八ヶ岳、南アルプスなどの豊かな自然や世界に誇れる多くの地域資源・地域産業を有しております。また、中部横断自動車道の山梨・静岡間の全線開通や開業が予定されているリニア中央新幹線等により、県外からの移住者の増加など、将来の飛躍的発展が期待されております。

私たち山梨中央銀行グループは、豊かで、活力や幸福感に満ち溢れた「well-beingな社会」を実現します。そして、長年にわたり築き上げてきた東京地区での営業基盤をはじめとした多くの人的・組織的なつながりを活かし、山梨から豊かな未来を世界に向かってきりひらいてまいります。

パーパス動画はこちら

プロフィール(2024年3月31日現在)

創　　業	1877(明治10)年
創　　立	1941(昭和16)年12月1日
本店所在地	山梨県甲府市丸の内一丁目20番8号
電話番号	055-233-2111(代)
資本金	154億円
総預金	3兆6,417億円
貸出金	2兆5,203億円
自己資本比率	9.57%(国内基準・速報値)
従業員数	1,609人
営業店舗数	本・支店89(うちインターネット支店1) 出張所10(うちライフスクエア8) (山梨県内78、東京都内19、神奈川県内2)

本誌に掲載してある計数は、原則として単位未満を切り捨てて表示しております。

グループ会社(連結子会社)

(2024年3月末現在)

会社名	業務内容
山梨中央保証㈱	信用保証業務等
山梨中銀リース㈱	リース業務等
山梨中銀ディーシーカード㈱	クレジットカード業務等
山梨中銀経営コンサルティング㈱	総合コンサルティング業務、ベンチャーキャピタル業務等
やまなし未来インベストメント㈱	投資助言業務等

表紙のコンセプト／「空と富士山」
山梨を象徴する富士山のシルエットと、同心円に大きな輪が広がる空を、「山梨から豊かな未来をきりひらく」イメージとして描いています

ごあいさつ

平素より山梨中央銀行をご利用、お引き立ていただき、誠にありがとうございます。

当行は、1877(明治10)年に第十国立銀行として創業以来、地域密着と健全経営に徹し、地域社会の発展とともに成長し、今日の基盤を築いてまいりました。永年にわたります皆さまからの温かいご支援、ご愛顧に、心から感謝申しあげます。

さて、ここに2024年3月期における当行の経営内容や業績等についてご報告申しあげます。

コロナ禍の混乱から経済・社会は次第に回復している一方で、ウクライナ、中東地域を巡る情勢の悪化を背景としたエネルギー・原材料価格の上昇などにより、家計や企業経営は引き続き影響を受けております。

金融機関においても異業種からの参入、少子高齢化と人口減少に伴う顧客基盤の縮小など、厳しい経営環境にあります。また、日本銀行のマイナス金利政策解除に伴い、金利のある世界における数々の対応が求められております。

こうした中、最終年度を迎える中期経営計画「TRANS^3(トランスキューブ)2025」(計画期間:2022年4月～2025年3月)においては、3つの変革ドライバーとして掲げた「AX(アライアンス)」・「DX(デジタル)」・「SX(サステナビリティ)」に基づき、当行自身のさらなる変革と中長期的な企業価値向上を目指し、各種施策に取り組んでおります。

併せて、脱炭素社会に向けた施策やダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの推進に係る非財務の定量目標を掲げ、持続可能な地域社会、サステナビリティ経営の実現に向けて取組みを一層加速させております。

当行グループは、パーパス(存在意義)である「山梨から豊かな未来をきりひらく」のもと、中長期的な視点で経済価値・社会価値の向上に取り組み、すべての人が幸福に暮らし、自己実現ができる「well-beingな社会」の実現に貢献できる金融機関でありたいと考えております。

今後とも、地域社会・お客さま・株主の皆さまから信頼していただける健全な財務体質を堅持するとともに、サステナビリティ経営の実現へ向けて、当行グループ役職員一同、積極果敢に挑戦し続けてまいりますので、引き続き、格別のご支援、お引き立てを心からお願い申しあげます。

2024年6月

取締役頭取
古屋賀章

経営理念

「地域密着と健全経営」

当行は、地域に根ざし、地域社会の繁栄と経済発展に寄与するとともに、お客さまから信頼していただける健全な経営姿勢を堅持し、経営内容の充実に努めてまいります。

当行のあゆみ

1874年　興益社設立
1877年　第十国立銀行として創業
1895年　有信貯金銀行設立
1907年　有信貯金銀行が有信銀行へ行名変更
1921年　山梨貯蓄銀行設立
1941年　第十銀行と有信銀行が合併し山梨中央銀行を創立
1943年　山梨貯蓄銀行を合併
1969年　現本店を竣工
1973年　東京証券取引所市場第一部に指定
1977年　創業100周年
1992年　山梨中銀金融資料館をオープン
2020年　静岡銀行と包括業務提携契約を締結
2022年　東京証券取引所プライム市場上場
・
・
・
2027年12月1日　創業150周年

当行のあゆみの詳細については、ホームページをご覧ください。

中期経営計画

経営理念　**地域密着と健全経営**

長期ビジョン　**Value Creation Bank**

中期経営計画 ▶▶▶ TRANS³ 2025（トランスキューブ）

～3つのドライバーと3つの戦略による変革と挑戦～

3つの変革ドライバー　「AX(アライアンス)」「DX (デジタル)」「SX (サステナビリティ)」

“事業体積”増加戦略

- コア事業の深化・拡大
- 新事業の探索

本業のさらなる磨きあげと新たなビジネスへの挑戦

“生産性”倍増戦略

- 事務ゼロへの挑戦
- 次世代チャネル改革

事務ゼロとチャネル改革による飛躍的な生産性向上

“サステナ”追求戦略

- 人的資本経営の実現
- ガバナンスの高度化

サステナブル経営と地域社会との共生の実現

パーパス(存在意義) » 「山梨から豊かな未来をきりひらく」

※TRANS³：TRANSは、下につける言葉に応じて、「超える」、「移行する」、「変革する」の意味になる接頭辞です。キューブは、3乗、立方体などの意で、TRANSの持つ3つの意味、3つの変革ドライバー、3つの基本戦略から3-3-3の3乗の意味合いを込めています。

定量目標

KPI

	2023年度(実績)	2024年度(中計最終年度)	ありたい姿	到達時期
OHR(コア業務粗利益経費率)	66.61%	73.5%以下	60%台	2028/3期
ROE(当期純利益ベース)	2.89%	3%以上	5%以上	2028/3期
管理・監督職に占める女性の比率	17.2%	20%以上 ※2	40%以上	2031/3期
リスキリングによる事務人員の再配置割合	16.7%	30%以上	70%以上	2031/3期
サステナブルファイナンス※1 投融資累計額	2,473億円	2,500億円以上	8,000億円以上	2030年度(2031/3期)
温室効果ガス(CO_2)排出量削減率	62.72% ※3	70%以上 ※4	カーボンニュートラル ※4	2030年度(2031/3期)

KGI

親会社株主に帰属する当期純利益	56億円	60億円以上	100億円以上	2028/3期

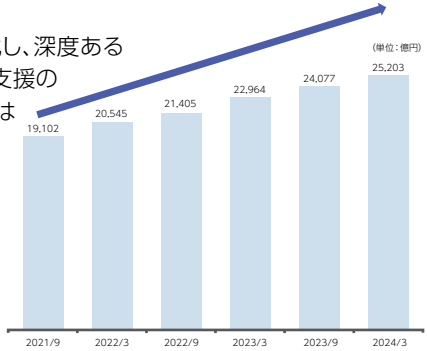
※1　持続可能な地域社会の実現に資する投融資(環境・教育・創業・事業承継など)
※2　2023年度で当初目標を達成したため、当行における管理・監督職に占める女性の比率目標を「15%以上」から「20%以上」に引き上げました。
※3　省エネ法の定期報告書における当行の温室効果ガス(CO_2)排出量(Scope1,2)に、2022年度からガソリン使用による排出量を加算しております。なお、2021年度以前についても同様に修正しております。また、温室効果ガス(CO_2)排出量削減率の実績は、2023年9月末時点のものです。
※4　脱炭素社会の実現に向けた取組強化の一環として、当行における温室効果ガス(CO_2)排出量の削減目標を「中期目標(2024年度):2013年度比46%削減、長期目標(2030年度):2013年度比60%削減」から「中期目標:2024年度までに2013年度比70%以上削減、長期目標:2030年度までにカーボンニュートラル」に引き上げました。

“事業体積”増加戦略

コア事業の深化・拡大

貸出金の推移

地域戦略を明確化し、深度あるコンサルティング支援の実施により貸出金は順調に推移。



新事業の探索

投資助言ビジネスへの参入開始

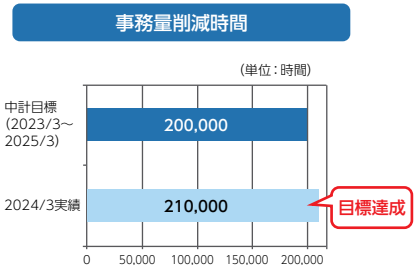
「やまなし未来インベストメント株式会社」を設立し、投資助言ビジネスへ参入。当初は、投資運用業者（が設定する私募投信信託）および山梨中央銀行等のプロ投資家のみを取引先として、国内外の有価証券等に関する投資助言からスタート。将来的には、個人および一般法人のお客さまに対する直接的な投資助言も検討。

“生産性”倍増戦略

事務ゼロへの挑戦

営業店事務ゼロ化の実現

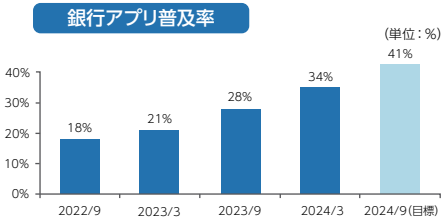
事務のシンプル化・集中化・システム化の各種施策を順次展開し、目標達成。今後も、生産性向上に向けて継続的な取組みを実施。



次世代チャネル改革

デジタルチャネルの強化

「山梨中銀アプリ」をメインに、銀行アプリの推進を強化。



※銀行アプリ：「Wallet+」、「山梨中銀アプリwith CRECO」、「山梨中銀アプリ」
※山梨県の20-74歳に対する、銀行アプリの利用者の割合

“サステナ”追求戦略

人的資本経営の実現

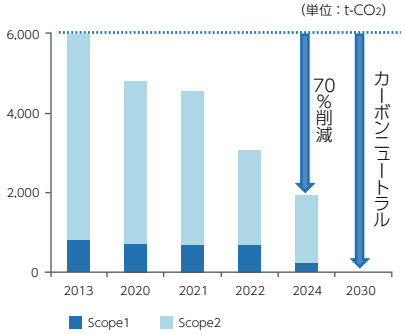
エンゲージメントサーベイ

人的資本経営の実現に向け、従来のeNPSアンケートを高度化し、エンゲージメントサーベイを実施。
サーベイ結果から具体的な課題を特定するため、16の領域について職員の「期待」と「実感」を測定し、その差分を算出。今後、抽出した課題に対し、具体的な解決に向けた環境改善活動に取り組む中、スコアの向上を図る。
なお、今回明らかになった組織全体の課題については、テーマを絞った研修の開催などによる改善活動を実施予定。

ガバナンスの高度化

CO_2排出量

環境負荷低減に向けて積極的に取り組んだことで、カーボンニュートラルに向けて順調に推移。



サステナビリティ経営への取組み

山梨中央銀行グループサステナビリティ方針

私たち山梨中央銀行グループは、経営理念「地域密着と健全経営」のもと、地域の皆さまに総合金融サービスを提供するとともに、人口減少問題や気候変動問題等の地域社会を取り巻くさまざまな課題の解決に誠実に取り組み、中長期的な視点で社会価値・経済価値の向上を目指してまいります。

これらの取組みを通じて、すべてのステークホルダーの皆さまとのより良い信頼関係を構築し、皆さまとともに持続可能な地域社会を実現してまいります。

6つのマテリアリティ

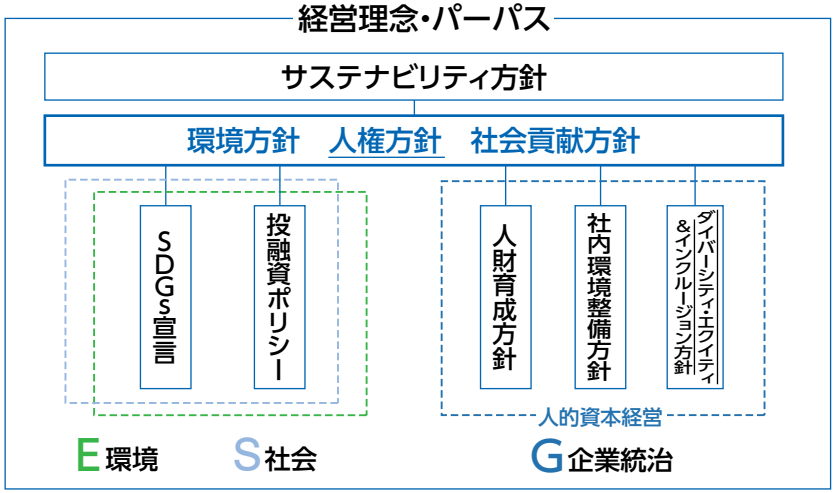
当行では、持続的な世界・地域社会の実現と継続的な企業価値向上をともに実現するため、サステナビリティ経営の高度化に取り組んでおります。その一環として、当行が取り組むべきマテリアリティ(重要課題)を特定しました。

ESG	マテリアリティ・テーマ	概　　要	関連する課題	関連するSDGs
E	豊かな自然環境の維持と将来への継承	当行の脱炭素に向けたCO_2削減の取組みを進めるとともに、環境関連商品・サービス・情報の提供を通じて地域社会の環境配慮への取組みを支援する	●脱炭素に向けたCO_2削減(※1) ●次世代クリーンエネルギーの実現(※1)	7 13 15 17
S	さまざまな連携強化と地域経済の活力向上	他行や産学官などとの連携を強化しながら、事業活動を通じた地域社会や産業の活性化支援と、山梨の魅力ある資源の発信によって、持続可能な地域社会の繁栄と地域経済発展に貢献する	●少子高齢化・人口減少 ●地域企業の持続的成長 ●地域イノベーション	8 9 10 11
	DX の実現と地域社会のデジタル化	デジタル技術を駆使した当行自身の変革と、そのノウハウを地域企業に還元することにより、地域社会全体のデジタル化の実現をけん引する	●行内のDX(※2) ●地域社会全体のデジタル化(※2)	9 11 17
	質の高い UI/UX (※3)を通じた共通価値の創造	地域に根ざし、お客さまのニーズに合った上質なサービスを提供することで、顧客価値を創造するとともに、当行の経済価値創出につながる新たなサービス・ビジネスモデルを構築する	●お客さまの行動様式・ニーズの変化 ●金融へのアクセシビリティ ●商品・サービスの品質	8 9
	多様な人財の成長と活躍を支える組織づくり	高い専門性を有した行員を育成するとともに、多様な人財が、互いに認め合い活躍できる職場環境を構築することで、働きがいのある組織風土を醸成する	●人財育成 ●ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン ●働きがい・働き方改革 ●心理的安全性	4 5 8
G	コーポレート・ガバナンスとコンプライアンスの強化	経営の健全性・透明性を確保し、あらゆるステークホルダーの皆さまからの信頼確立のために、組織体制の構築、情報開示の充実およびステークホルダーの皆さまとの対話に取り組む	●ガバナンス・内部統制 ●コンプライアンス・企業倫理 ●リスクマネジメント	16 17

(※1)当該項目は、マテリアリティマップの「気候変動・温暖化」を当行視点・地域視点でブレークダウンした項目
(※2)当該項目は、マテリアリティマップの「デジタル・トランスフォーメーション」を当行視点・地域視点でブレークダウンした項目
(※3)UI：ユーザーインターフェースの略。お客さまと当行をつなぐ接点
UX：ユーザーエクスペリエンスの略。お客さまが当行の商品・サービスを利用することで得られる新たな体験や満足感

サステナビリティ経営のさらなる高度化、人的資本経営の実現に向け、各種方針の制定、人財育成等に取り組んでおります。

人権方針、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン方針の制定



当行グループでは、「経営理念」、「パーパス」および「サステナビリティ方針」に基づき、事業活動を通じてあらゆるステークホルダーの人権の尊重に取り組むべく「人権方針」を制定しました。

また、人的資本経営の基盤となる考え方を「ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン方針」として制定し、なお一層の取組深化を図っております。

当行のサステナビリティに関する各種方針については、ホームページをご覧ください。

「talentbook」の活用による情報発信

人的資本経営の実現に向けて、高い専門性を持つ多様な人財が、さまざまなステークホルダーに対して価値創造を実践している取組みを正しく理解していただくことを目的に、「talentbook」を活用して情報を発信しております。

【情報発信の例】
「前例の少ない男性長期育休を取得。周囲の理解とともに調整を重ねてつかんだ新しい境地」

「talentbook」掲載内容については、こちらをご覧ください。

新事業開発プログラムによる人財育成

所属や年齢、役職を問わず、行員が自発的に参加し、外部専門機関の支援を受けながら、新事業アイデアの発想方法やビジネスモデル構築等について学び、新事業の開発を目指しております。

【第1弾】:10名　2022年11月～2023年1月
【第2弾】:10名　2023年12月～2023年3月

アイデアの創出においては生成AI「ChatGPT」も活用しました。

ビジネスモデル構築においては、外部専門機関の提供による「ビジネス折り紙」を活用し、行員同士でディスカッションを実施しました。

優秀なアイデアについてはさらなるニーズ検証や実現可能性の検証等を行い、事業化を目指してまいります。

サステナビリティ経営への取組み

持続可能な地域づくりや地域産業活性化に向け、金融・非金融サービスの提供によるさまざまな取組みに努め、地域社会の発展に貢献してまいります。

一部の店舗外ATMをカーボンニュートラル

当行の店舗外ATM10拠点（15台）の稼働に関連して排出するCO_2について「やまなし県有林活用温暖化対策プロジェクト」の一環であるオフセット・クレジット「やまなし県有林J-VER」を購入することにより、カーボンニュートラルを実現しました。

これにより、年間32t-CO_2が削減されます。

環境保全に向けた新たな活動

笛吹市に新たな森林をお借りし、「山梨ちゅうぎん生物多様性の森」として、脱炭素や生物多様性保全に貢献する活動を行っております。

本件により、地域の環境保全に関する活動をこれまで以上に積極的に行ってまいります。

植樹活動の様子

サステナブルファイナンス等の取扱い

お客さまの多様な資金調達ニーズにお応えするために、各種商品を取り扱っております。

■山梨中銀サステナビリティ・リンク・ローン
■山梨中銀ポジティブ・インパクト・ファイナンス
■山梨中銀SDGs応援ローン
■山梨中銀SDGs私募債

新たな観光価値創出に向けた取組み

山梨県の主要産業の一つ「観光関連産業」が抱える課題（観光消費額の低迷等）の解決および新たな収益基盤の確立に向けて、「観光価値創造業」の事業化に着手しました。

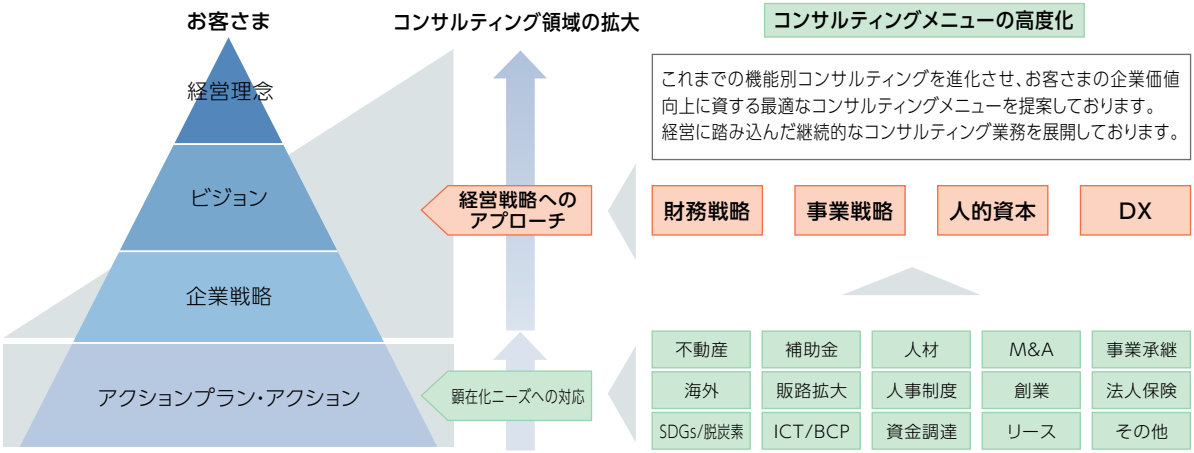
その取組みの一環として、アンカー・シップ・パートナーズ株式会社と連携し、清水港に寄港した豪華客船「飛鳥Ⅱ」の乗船者を対象とした山梨県への日帰り寄港地観光ツアーを企画しました。本ツアーにより、山梨県の上質なモノやサービスなどを五感で感じていただき、地域のブランディングによる認知度およびイメージの向上を図るとともに、交流人口の増加により観光消費額の拡大などにつながりました。

身延山久遠寺における特別な御開帳の様子

地域のお客さまへのサービス向上に努めるとともに、企業市民として、教育支援、文化・芸術・スポーツ振興等さまざまな分野における取組みを充実してまいります。

持続的な地域課題への解決に向けて（伴走支援）

当行グループの知見・ネットワークを活かし、さまざまなライフステージ（創業期、成長期、安定期、低迷期・再生期）のお客さまに対して、各種コンサルティングを行っております。



スポーツ振興への取組み

全国トップレベルの成績を収めている当行女子バレーボール部による「ふれあいバレーボール教室」、「さわやかキッズバレーボール教室」を開催しております。また、「山梨中央銀行杯山梨県ママさんバレーボール大会」を開催し、県内バレーボールの普及・技術向上に取り組んでおります。

さらに、スポーツイベントの協賛や、県内に本拠地を置くスポーツチームをスポンサーとして応援するなど、スポーツ振興を通じた地域の活力創出にも取り組んでおります。

第14 回全国 6 人制リーグ総合男女優勝大会グランドチャンピオンマッチで優勝した当行女子バレーボール部

金融リテラシー向上に向けた取組み

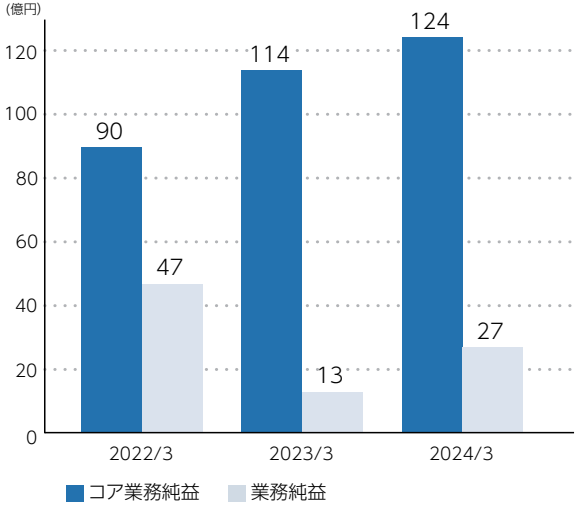
地域への金融教育として、学校での出張授業や、職場体験の受け入れ、「エコノミクス甲子園山梨大会」の開催、資産形成にかかるセミナーなど、金融リテラシー向上に向け積極的に取り組んでおります。

また、山梨中銀金融資料館では、「金融教育コーナー」「新紙幣特別コーナー」を設置し、楽しく体験しながらお金の知識を身に付けることができます。

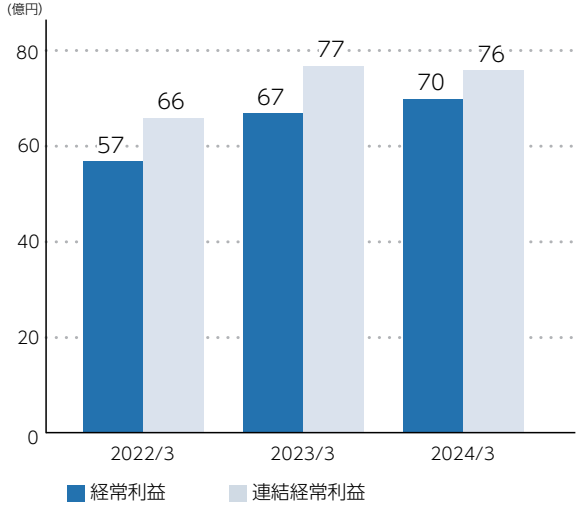
山梨中銀金融資料館の詳細については、ホームページをご覧ください。

業績ハイライト

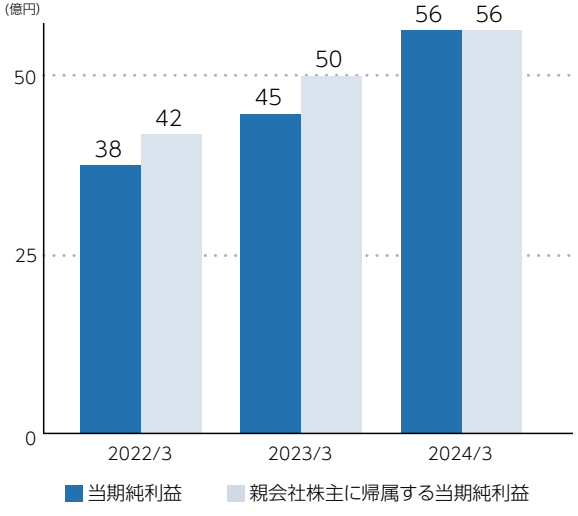
コア業務純益・業務純益



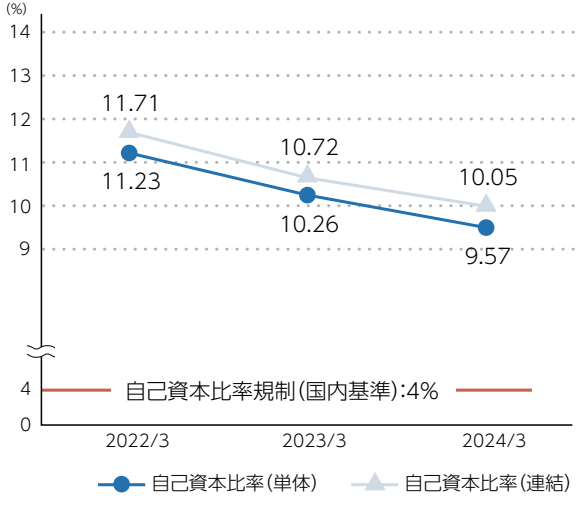
経常利益



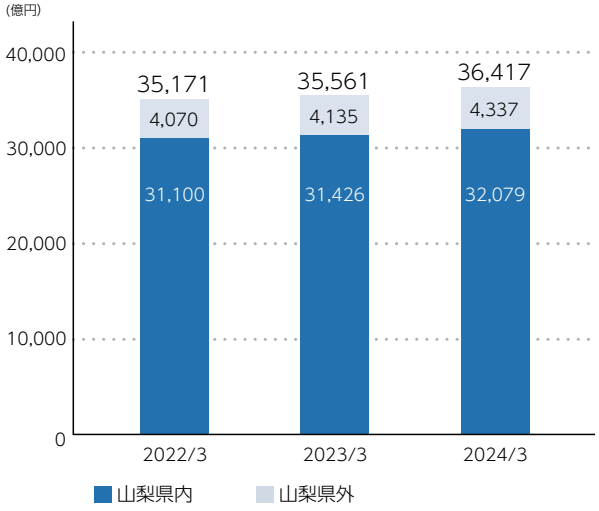
当期純利益



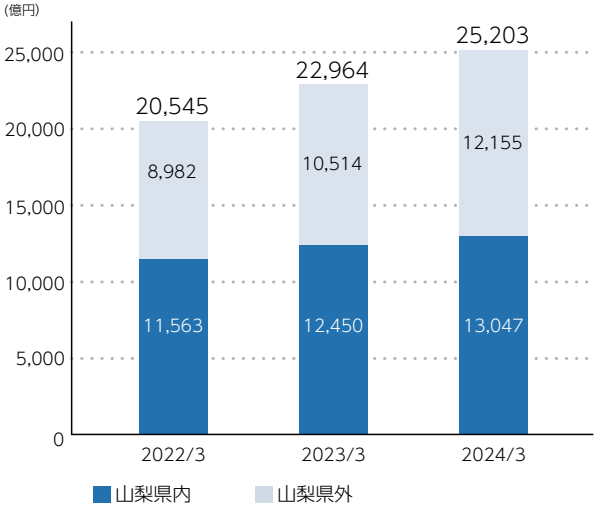
自己資本比率



総預金

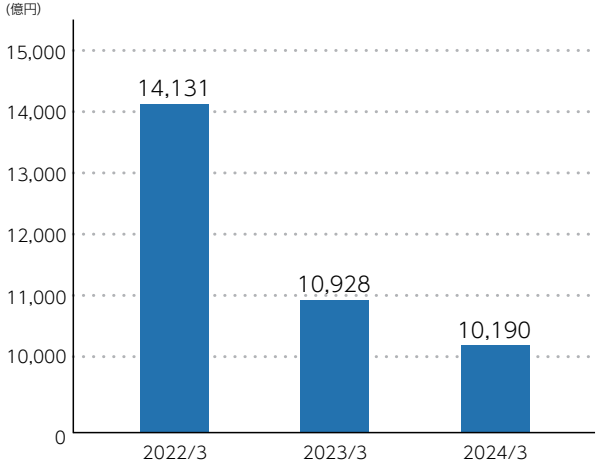


貸出金



※「山梨県内の総預金」、「山梨県内の貸出金」とは、山梨県内の営業店舗および本部勘定における預金、貸出金のことです。

有価証券



格付

㈱格付投資情報センター(R&I)　(2024年4月30日現在)

発行体格付	格付の方向性
A− (シングルAマイナス)	安定的
	短期格付 a−1

当行の財務情報の詳細については、
ホームページをご覧ください。

店舗のご案内

（2024年５月1日現在）

甲府市内店舗

- 本店営業部
- 甲府市役所出張所
- 県庁
- 南・住吉・自治会館出張所
- 青沼
- 柳町
- 東
- 甲府駅前
- 湯村・千塚
- 下飯田
- 武田通・北新
- 貢川
- 酒折
- 和戸
- ライフスクエア和戸
- 国母・中央市場
- 後屋
- 城南・中道
- インターネット富士山支店

便利なチャネルです。ぜひご活用ください。

ライフスクエア

平日15時以降や土・日曜日にも、各種個人ローンや資産運用等のご相談・お申込みを承っております。

インターネット富士山支店

窓口にご来店いただくことなく、インターネットでの普通預金口座の開設が可能となるほか、当該口座の利用に関するサービスをご提供します。

キャッシュコーナーのご案内

（2024年５月1日現在）

店舗外キャッシュコーナー　119か所（うち、セブン銀行との共同ATM 36か所）

提携ATM

イオン銀行、イーネットATM、JR東日本ATM、セブン銀行、ゆうちょ銀行、ローソン銀行ATM

提携地銀によるATM相互提携

下記提携行のATMをご利用の場合にATM手数料・振込手数料が割引となります。
常陽銀行、筑波銀行、武蔵野銀行、千葉銀行、千葉興業銀行、きらぼし銀行、横浜銀行、群馬銀行、静岡銀行
※群馬銀行、静岡銀行との間では振込手数料の割引はございません。

ミックス
紙｜責任ある森林管理を支えています
FSC® C023103
www.fsc.org
世界遺産
美しい富士山を未来へ
山梨から豊かな未来をきりひらく
山梨中央銀行

2024年6月発行　山梨中央銀行　経営企画部
〒400-8601　甲府市丸の内一丁目20番8号
TEL 055-233-2111（代）
https://www.yamanashibank.co.jp/